

\*\*\*\*\*  
開講科目名：民事訴訟法研究（2単位）  
開設年次：1年 2年  
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻  
担当者：張 瑞輝  
\*\*\*\*\*

## 《授業の概要》

### 《授業の目的》

実体法上の法律関係を的確に把握していることを前提として、その実体に適合する手続の流れと選択を為し得るように、手続の流れに沿って民事訴訟法の基本概念と基本構造を習得することを授業目的とする。そのうえ、民事訴訟法の重要問題（争点）について学説の生成過程と重要判例の変遷を自ら進んで整理し、通説の通説たる所以や判例の意義・射程などを正しく把握することを目指す。

### 授業計画

- 1 第1部 総論 第1回 民事訴訟法の世界への扉
- 2 第2部 訴訟の主体 第2回 裁判所（裁判権、管轄、移送、除斥・忌避・回避）
- 3 第3回 当事者（当事者の概念と確定、当事者能力、訴訟能力、訴訟上の代理）
- 4 第3部 訴え 第4回 訴え（概念と種類、訴えの提起）
- 5 第5回 訴訟要件（訴えの利益、当事者適格〔第三者の訴訟担当〕）
- 6 第6回 訴訟物
- 7 第4部 訴訟の審理 第7回 審理における当事者の弁論活動と裁判所の役割（処分権主義、弁論主義、職権進行主義）
- 8 第8回 口頭弁論とその準備（口頭弁論に関する諸原則等）
- 9 第9回 証拠（証拠、証拠の評価、証明責任）
- 10 第5部 訴訟の終了 第10回 当事者の行為による訴訟の終了（訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解）
- 11 第11回 終局判決による訴訟の終了（終局判決、既判力の客観的範囲、主観的範囲、時的限界）
- 12 第6部 複雑な訴訟形態 第12回 複数請求訴訟（訴えの併合、訴えの変更、反訴、中間確認の訴え）
- 13 第13回 多数当事者訴訟（共同訴訟、訴訟参加〔補助参加、独立当事者参加〕）
- 14 第7部 上訴・再審 第14回 上訴・再審
- 15 第8部 特別の手続 第15回 略式訴訟手続（手形・小切手訴訟、少額訴訟手続、督促手続等）

### 《テキスト》

プリントを配布する。

### 《参考書》

- (A1) 伊藤眞・山本和彦（編）『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）
- (A2) 杉山悦子『民事訴訟法重要問題とその解法』（日本評論社、2014年）
- (A3) 高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂（編）『民事訴訟法判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2015年）
- (B1) 和田吉弘『基礎からわかる民事訴訟法』（商事法務、2012年）
- (B2) 高橋宏志『民事訴訟法概論』（有斐閣、2016年）
- (B3) 上原敏夫・池田辰夫・山本和彦『民事訴訟法 第7版』（有斐閣、2017年）
- (B4) 中野貞一郎・松浦馨・鈴木正裕『新民事訴訟法講義 第3版』（有斐閣、2018年）